

「立地適正化計画」を活用したみなとまちづくりに関する研究
ー北海道室蘭市における市民意識から捉えた地域構造に着目してー

日本大学 学生会員 ○勇崎大翔 日本大学 正会員 岡田智秀 日本工営株式会社 正会員 三溝裕之

1. 研究目的；人口減少などの都市問題に対応するべく、コンパクトなまちづくりを目指し持続的な都市経営を図る「立地適正化計画（以下；立適）」¹⁾の策定が各地で展開されている。この取り組みは、港湾を有する地域においても実施されている。これまで港湾政策と都市政策は別々に扱われ、両者一体とした地域ビジョンの形成は希薄であった。しかし、これを機に港湾エリアにあっても、「立適」における都市機能誘導区域⁽¹⁾や居住誘導区域⁽²⁾等の設定を通じて、港湾エリア（主に臨港地区）と都市エリアが一体となる“みなとまちづくり”を推進すべきと考える²⁾。その推進にあたっては、単なる机上の政策にとどめずに、「立適」の計画区域が地元住民の日常の生活行動や意識の中心となるように、港湾と都市の両エリアをつないでいく具体的な手立てを講じることが重要であると認識する。

そこで、本研究では、平成31年3月に「立適」を策定した北海道室蘭市³⁾を対象として、市民意識や市民の生活行動から捉えた地域構造を把握し、当該計画の妥当性と課題点について明らかにすることを目的とする。

2. 調査方法；以上を踏まえ、表1のアンケート調査を実施した結果、105人の有効回答を得た。

表1 調査概要 [筆者作成]

アンケート調査	
調査日	2019年8月31日(土)～12月7日(土)
調査対象	2019年8月31日(土)実施のまちづくりトークイベントおよび2019年11月25日(月)実施の室蘭市まちづくり講演会参加者計200名に手渡しにてアンケートシートを配布し、郵送による返送にて得た105件の有効回答を対象
調査項目	・室蘭市内でよく行動する範囲(地図上に記入) ・室蘭市内でよく利用する施設(5つ以内記入) ・室蘭らしいと感じる領域(地図上に記入) ・室蘭らしいと感じる事物(5つ以内記入)
被験者の属性 (N=105)	
性別	男性: 83人 (79.0%), 女性: 22人 (21.0%)
年齢	20～30代: 31人 (29.5%), 40～50代: 33人 (31.4%), 60～70代: 37人 (35.2%), 80代以上: 4人 (3.8%)
職業	会社員: 13人 (12.4%), 自営業: 4人 (3.8%), 公務員: 41人 (39.0%), 学生: 8人 (7.6%), 主婦: 3人 (2.8%), 無職: 24人 (22.9%), その他: 12人 (11.4%)
居住地区	蘭西地区: 41人 (39.0%), 蘭東地区: 48人 (45.7%), 蘭北地区: 16人 (15.2%)
居住年数	1～10年: 23人 (21.9%), 11～20年: 12人 (11.4%), 21～30年: 17人 (16.2%), 31～40年: 10人 (9.5%), 41～50年: 16人 (15.2%), 51年以上: 27人 (25.7%)
地区概要	
■北海道室蘭市の概要 人口: 84,727人 (2019年3月現在) 面積: 80.88km² 【凡例】 ■■■■■: 都市機能誘導区域 ■■■■■: 居住誘導区域 ■■■■■: 臨港地区 伊達市 室蘭市 登別市 白鳥台地区 本輪西地区 東明地区 蘭北エリア 中島地区 室蘭港 港南地区 輪西地区 東地区 内浦湾 中央地区 蘭中地区 蘭西エリア 太平洋	

キーワード 立地適正化計画, みなとまちづくり, 北海道室蘭市, 領域認知, 臨港地区
連絡先 〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台 1-8-14 日本大学理工学部まちづくり工学科岡田研究室 TEL03-3259-0484

3. 結果および考察；表1のアンケート調査により、被験者が地図上に記入した「生活行動領域」と「室蘭らしいと感じる領域」のそれぞれについて100mメッシュで分割し（各々8,612メッシュ）、本市の全9居住区を3つのエリアに大別して、エリアごとの集計結果を示したものが図1～6である。また、市民の「日常利用施設」と「室蘭らしい事物」のそれぞれ上位7項目を示したものが表2、3である。以降はこれらをもとに考察する。

(1) 市民の「生活行動領域」；図1～3より各エリアの「生活行動領域」として4割以上の被験者が指摘する領域をみると、蘭西エリアでは「中央地区」、蘭東エリアでは「中島地区」と「東地区」、蘭北エリアでは「白鳥台地区」に加え、「中央地区」や「中島地区」など、「立適」の計画区域において指摘が集中していた。これより、「立適」の計画区域の設定は妥当であるといえよう。そこで、これらの領域づけの要因を捉えるため、各居住エリアの「日常利用施設」（表2）に着目すると、蘭西エリア、蘭東エリアでは、都市機能誘導区域が設定されている「中央地区」や「中島地区」、「東地区」に位置する「商業施設」や「勤務先」、「集会所」などの諸施設が挙げられた。一方、地区内に都市機能誘導区域の設定がみられない蘭北エリアでは、都市機能誘導区域が設定されている「中島地区」や「東地区」、「中央地区」の諸施設が利用施設の上位項目として挙げられた。これより、都市機能誘導区域の構成施設が市民の生活行動を促しているといえよう。しかし、各居住エリアにおける臨港地区と生活行動の重なりに着目すると（図1～3）、4割以上の指摘が集中するエリアとの重なりはみられず、これは、みなとまちづくり実現における生活行動の課題といえよう。

(2) 「室蘭らしい領域」；図4～6より、4割以上の被験者が「室蘭らしいと感じる領域」に着目すると、3つの居住エリアそれぞれにおいて、臨港地区と重なる場所に領域づけがされていることがわかる。そこで各エリアの「室蘭らしい事物」（表3）に着目すると、共通して「白鳥大橋」や工業港湾の表象である「工場群」など、室蘭港内の事物が最も多く挙げられた。続いて、室蘭港の外海の景色が楽しめる「地球岬」や「イタンキ浜」、室蘭港と市街地を一望

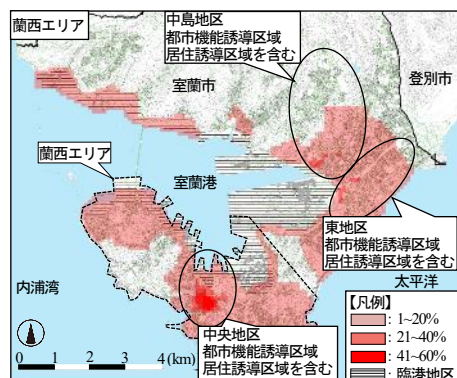


図1 蘭西エリア居住者の「生活行動領域」〔筆者作成〕

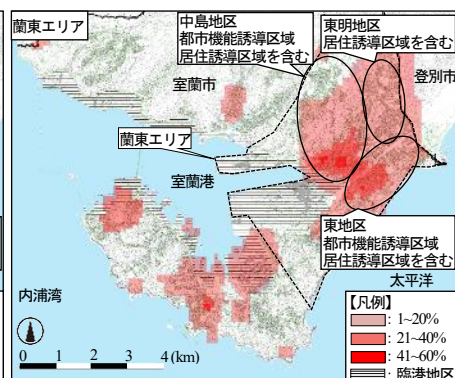


図2 蘭東エリア居住者の「生活行動領域」〔筆者作成〕

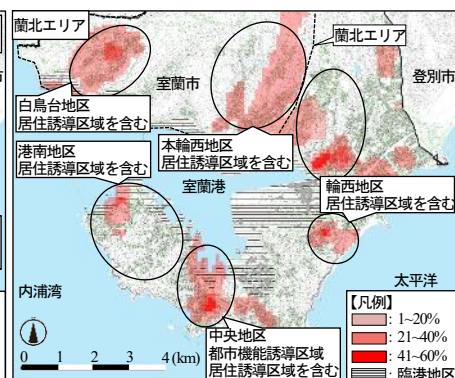


図3 蘭北エリア居住者の「生活行動領域」〔筆者作成〕

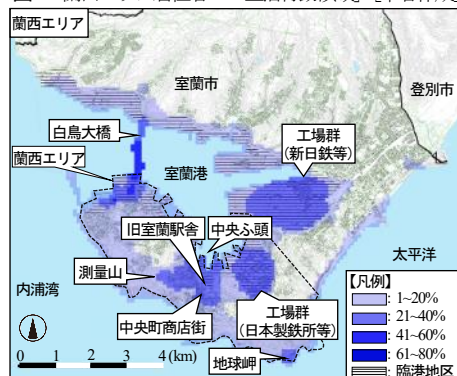


図4 蘭西エリア居住者が「室蘭らしいと感じる領域」〔筆者作成〕

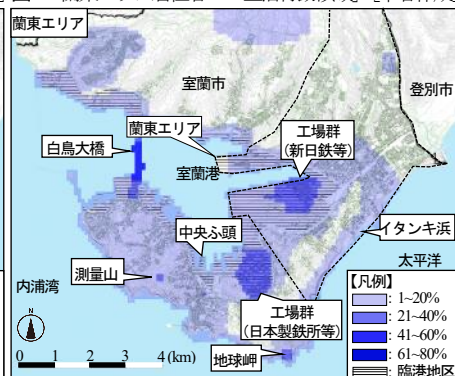


図5 蘭東エリア居住者が「室蘭らしいと感じる領域」〔筆者作成〕

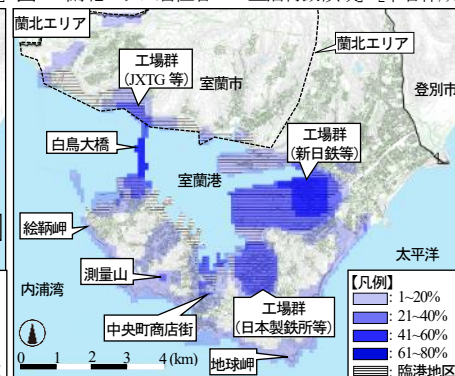


図6 蘭北エリア居住者が「室蘭らしいと感じる領域」〔筆者作成〕

表2 居住エリアごとの市民の「日常利用施設」の上位7項目〔筆者作成〕

No.	利用施設	利用目的	地区	件数 (%)	利用施設	利用目的	地区	件数 (%)	利用施設	利用目的	地区	件数 (%)
1	商業施設	買い物等	●中央地区	31件 (75.6%)	商業施設	買い物等	●中島地区	25件 (52.1%)	商業施設	買い物等	○中島地区	12件 (75.0%)
2	勤務先	通勤	●中央地区	17件 (41.5%)	商業施設	買い物等	●東地区	21件 (43.8%)	商業施設	買い物等	○東地区	7件 (43.8%)
3	商業施設	買い物等	○中島地区	14件 (34.1%)	勤務先	通勤	○中央地区	18件 (37.5%)	商業施設	買い物等	●本輪西地区	5件 (31.3%)
4	商業施設	買い物等	○東地区	10件 (24.4%)	学習施設	図書・娯楽	●中島地区	14件 (29.2%)	勤務先	通勤	○中央地区	5件 (31.3%)
5	集会所	会議等	●中央地区	8件 (19.5%)	商業施設	買い物等	●東地区	10件 (20.8%)	集会所	会議等	●本輪西地区	5件 (31.3%)
6	集会所	会議等	○輪西地区	5件 (12.2%)	勤務先・通学先	通勤・通学	●東地区	8件 (16.7%)	集会所	会議等	○中央地区	5件 (31.3%)
7	娯楽・散策施設	娯楽・散策	●中央地区	3件 (7.3%)	娯楽・散策	娯楽・散策	●東地区	5件 (10.4%)	商業施設	買い物等	●白鳥台地区	4件 (25.0%)

(注)「N(母数)」は各居住エリアの全回答者数。

【凡例】●当該エリア内、○当該エリア外

表3 居住エリアごとに市民が「室蘭らしい」と感じる上位7項目〔筆者作成〕

No.	室蘭らしい事物	カテゴリー	地区	件数 (%)	室蘭らしい事物	カテゴリー	地区	件数 (%)	室蘭らしい事物	カテゴリー	地区	件数 (%)
1	白鳥大橋	室蘭港内事物	●港南地区～ ○白鳥台地区	17件 (41.5%)	白鳥大橋	室蘭港内事物	○港南地区～ ○白鳥台地区	25件 (52.1%)	白鳥大橋	室蘭港内事物	●白鳥台地区～ ○港南地区	12件 (75.0%)
2	工場群(新日鉄等)	室蘭港内事物	●中島地区～ ○輪西地区	15件 (36.6%)	工場群(新日鉄等)	室蘭港内事物	●輪西地区～ ○中島地区	25件 (52.1%)	工場群(新日鉄等)	室蘭港内事物	○輪西地区～ ○中島地区	8件 (50.0%)
3	地球岬	室蘭港外海	●中島地区	14件 (34.1%)	地球岬	室蘭港外海	○中島地区	18件 (37.5%)	工場群(XGT等)	室蘭港内事物	●白鳥台地区	8件 (50.0%)
4	測量山	山岳	●中央地区	11件 (26.8%)	測量山	山岳	○中央地区	13件 (27.1%)	地球岬	室蘭港外海	○中島地区	6件 (37.5%)
5	旧室蘭駅舎	文化施設	●中央地区	9件 (22.0%)	市街街並み	市街街並み	○中央地区	11件 (22.9%)	測量山	山岳	○中央地区	5件 (31.3%)
6	中央ふ頭	室蘭港内事物	●中央地区	6件 (14.6%)	イタンキ浜	室蘭港外海	●東地区	9件 (18.8%)	中央町商店街	市街街並み	○中央地区	4件 (25.0%)
7	中央町商店街	市内街並み	●中央地区	6件 (14.6%)	室蘭港内事物	室蘭港内事物	○中央地区	7件 (14.6%)	地球岬	室蘭港外海	○港南地区	3件 (18.8%)

(注)「N(母数)」は各居住エリアの全回答者数。

【凡例】●当該エリア内、○当該エリア外

できる「測量山」などが多く挙げられた。このことから、

室蘭市が港湾を中心としたすり鉢状の地形を有し、港湾や海への眺望を日常的に体感できるため、市民の港湾への認知を高めているといえよう。また、「中央町商店街」など港湾の発展とともに形成された街並みや、かつて石炭輸送の終着駅として利用されていた「旧室蘭駅舎」など、「中央地区」が有する旧港湾の名残が各居住エリアにおいて室蘭らしい事物として挙げられた。他方、都市機能誘導区域が設定され市民の生活行動の拠点となっている「中島地区」においては、「室蘭らしい事物」が上位項目でみられなかった。

4. まとめ; 以上より、室蘭市において、都市機能誘導区域が市民の生活行動の中心的な役割を果たしている実態が把握できた。中でも「中央地区」は、港湾資源が「室蘭らしい事物」として市民に認知されており、生活行動と室蘭港への意識が重なる地区であることが捉えられた。これよ

り、「中央地区」は「立適」を活用したみなとまちづくり実現の可能性が高い地区といえよう。しかし、臨港地区に着目すると、生活行動との重なりが見られなかったため、地区内の港湾資源を活用し、臨港地区へと生活行動を促すことがみなとまちづくり実現に向けた今後の課題となることを明らかとした。他方、「中島地区」では本市を特徴づける地域資源が見られなかったため、本市が有するすり鉢状の地形を活かし高台視点場を設けるなど、室蘭港への眺望を演出することで本市民と港湾エリアを意識的につなぐことが、みなとまちづくり実現に向けた一手法になると考える。

謝辞; 本研究成果は、研究奨励寄付金(日本工営株式会社)による。本調査にあたり多大なご協力を頂いた室蘭市都市政策推進課北村祐貴氏に感謝致します。

補注; (1) 都市機能誘導区域とは、医療・福祉・商業等の都市機能を都市の中心拠点や生活拠点に誘導し集約することにより、これらの各種サービスの効率的な情報提供を図る区域である。(2) 居住誘導区域とは、一定エリアにおいて人口密度を維持することにより、生活サービスやコミュニティが持続的に確保されるよう、居住誘導を促進すべき区域である。

参考文献; 1) 国土交通省:「みんなで進めるコンパクトなまちづくりへいつまでも暮らしやすいまちへ」、<https://www.mlit.go.jp/common/001195049.pdf> (最終閲覧日: 2019.9.23) / 2) 都市計画通信社: 港湾空港タイムズ, 都市計画通信社, p.1, 2019.6.3 / 3) 室蘭市:「室蘭市立地適正化計画」, <http://www.city.muroran.lg.jp/main/org/7310/documents/ritteki.pdf> (最終閲覧日: 2019.9.23)